

平成23年度

コンピュータサービス技能評価試験（情報セキュリティ部門）試験問題 概要

1. 試験区分

| 試験区分 | 級 別 | 配 点 | 採点方式 |
|------|-----|------|------|
| 筆記試験 | 単一級 | 100点 | 得点法 |

2. 合格基準

得点が85点以上を合格とする。

3. 試験実施日、試験会場及び開始時刻

受験票で通知のとおり。

4. 試験の概要

| 試験の概要 | 出題形式 | 試験時間 |
|---|--------------------|------|
| 次に示す項目の情報セキュリティ対策に関する知識を問う。 ビジネスユース ・ 出社時 ・ データベースサーバー活用による業務時 ・ Webサーバー活用による業務時 ・ その他の業務時 ・ 退社時 パーソナルユース(インターネット活用時) ・ 友人との情報のやりとり ・ ネットショッピング ・ 情報収集 ・ ホームページの立上げ ・ 不特定多数の個人との情報のやりとり ・ その他 JIS規定の関連用語の定義 関係法令 | 4肢択一 方式で 50題 | 60分 |

5. 試験当日の注意事項

- (1) 試験当日、次のものを必ず持参すること。
 受験票
 筆記用具（鉛筆、消しゴム）
- (2) 試験当日は、受験票で通知のあった指定時刻に、時間厳守で集合すること。
- (3) 試験当日は、試験委員の指示に従って行動すること。
 なお、指示に従わないため、試験実施に支障が出た場合には、「失格」となることがあるので、十分に注意すること。
- (4) 出題方式は4肢択一方式で、4つの選択肢の中から「正解」と思うものを1つ選んで解答すること。
- (5) 試験中においては、次の事項に注意すること。
 - ・ 読みにくい文字等があった場合には、黙って手を挙げる。ただし、問題の内容に関する質問は受け付けない。
 - ・ 手洗いに立ちたい場合には、黙って手を挙げ、試験委員の指示に従うこと。
 - ・ 用具等の貸し借りや私語は禁止とする。
 - ・ 試験開始後20分間は、退室を認めない。
- (6) 採点は得点法で行い、正答数の合計を得点とする。
- (7) 「試験終了時刻」前に解答を終える場合には、黙って手を挙げ、試験委員の指示に従うこと。

コンピュータサービス技能評価試験「情報セキュリティ部門」練習問題

(印：正解を示す)

< 例題 1 > 「個人情報」の保護対象とならないものは、次のうちどれか。

- ア．データベース上の社員番号のみのリストで、社員名や所属部署のリストとの照合が容易に可能なもの
- イ．取引先の担当者のフルネームをカタカナ表記したのみのリストで、会社名・所属部署・電話番号等の記載がないもの
- ウ．来訪者が記入した半年前の「入退室管理表」のストック
- エ．宅配に使用する発送伝票において、「お届け先」に住所・社名・所属部署を記入して個人名の記入をせず、「依頼主」に住所・社名・担当者名を記入したもの

< 例題 2 > 電子メールのパスワードとして適切なものは、次のうちどれか。

- ア．JAaVAbDAc
- イ．16%59pq
- ウ．qwertyuio
- エ．ADAVAJ

< 例題 3 > 紙媒体の取扱いとして適切なものは、次のうちどれか。

- ア．取引先から自分宛に届いた送付状を廃棄する際、発送主の個人名が記載されていなかったため、そのまま「燃えるゴミ」として処分した。
- イ．同僚宛に、得意先から封筒に入った顧客名簿を預かってきたが、本人が出張中であったため、施錠した机に保管した。
- ウ．来訪者用の「入退室管理表」を、一覧表形式のものとして受付に設置した。
- エ．打合わせ終了後、配布した顧客名簿を社内会議室に置き忘れてきたが、次の会議室使用の予約が入っていないため、急ぎの案件を処理してから、顧客名簿を取りに行った。

< 例題 4 > パソコンの利用方法として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．離席時には、ディスプレイの電源をオフにしておけば、クリアスクリーンポリシーに則ることができる。
- イ．取り急ぎ、重要なデータをメールで送信する必要があったので、まず所属長にその旨の了承を得てから、予め決められている適切なパスワードを設定して、データを送信した。
- ウ．Word で作成した顧客向けの招待状(宛先を含む)を CD-R に収録し、イベント会社の担当者に直接手渡しした。
- エ．セキュリティソフトによるパソコンのスキャンは、定期的に月に 1 回行うようにしている。

< 例題 5 > JIS において、以下の内容で定義される用語として適切なものは、次のうちどれか。「通常、適切な行動をとることにより、事故又は悪意に基づく行為から、データ及び資源を保護すること。」

- ア．管理的セキュリティ
- イ．セキュリティ
- ウ．通信セキュリティ
- エ．データセキュリティ

< 例題 6 > 「著作権法」に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．著作物とは、思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもののことである。
- イ．二次的著作物とは、二人以上の者が共同して創作した著作物のことである。
- ウ．公衆送信とは、公衆によって直接受信されることを目的として、無線通信又は有線電気通信の送信を行うことである。
- エ．複製とは、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、有形的に複製することである。